

弥生時代前期の水田跡発見について



徳島大学埋蔵文化財調査室は、昨年7月より蔵本キャンパス内の外来診療棟新設予定地内における、庄・蔵本遺跡の発掘調査において、弥生時代前期の水田跡を発見しました。

弥生時代前期の水田跡は、蔵本キャンパスにおいて2000年、2006年、2011年の調査で検出されておりますが、今回は、前3回よりも遺構の保存状況が良好な形で検出することができました。

2007年3月の畑跡の発見に続いて、徳島における弥生時代開始期における農業の実態を知る上で、意義のある発見となりました。

● 弥生時代前期の水田跡

蔵本キャンパスに位置する庄・蔵本遺跡は、県下最大の弥生時代前期(初期水田農耕集落)です。1980年代から発掘調査を継続していますが、今までに、集落、墓、畑、用水路、など、日本列島における初期水田稲作の実態を知る上で重要な発見を繰り返して参りました。

このたび、2000年、2006年、2011年に続いて水田跡を検出できました。前3回より保存状況は良好です。

水田は、弥生時代前期終わり頃の洪水によって埋没していました。水田の畦畔は、幅1.5mほどの大畦畔と、幅20cmほどの小畦畔の2種類のもが見られました。水田1枚は東西4m南北3mほどの畦畔によって区画され、今回は30枚ほどの水田を確認しています。新県立中央病院から、蔵本キャンパスほぼ中央部まで水田の広がり確認でき、当時相当規模の水田稲作経営が行われていたことが明らかになりました。

庄・蔵本遺跡は、眉山の麓に集落と墓が位置し、その縁辺に畑があり、外縁部に灌漑用水路と水田跡が展開します。このような集落の全体像が復元しうる遺跡は、全国的にもほとんどありません。

現地は調査後埋め戻され、新たに外来診療棟となり、実見できなくなります。これほど良好な形の水田跡を見学できることはめったにありませんので、是非報道関係の方々並びに市民の皆様にご公開いたしたいと思っております。

1月10日木曜日、13時30分から、報道関係の方々向けの案内を現地(蔵本キャンパス外来診療棟建設予定地・正門入ってすぐ)にて行いますので、詳細は下記までご連絡ください。

なお、一般市民の皆様向けの現地説明会は、1月12日土曜日午前10時～12時に行います。

お問い合わせ先

○ 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授
埋蔵文化財調査室室長(兼任)
中村 豊

〒770-8503 徳島市蔵本町2-50-1
tel:090-4504-1903

[E-mail : yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp](mailto:yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp)

当日説明は、同埋蔵文化財調査室助教・遠部 慎(おんべ・しん)が行います。